

松江工業高等専門学校 同窓会 会報

第13号

2023.9.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内

TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: dosokai-jimukyoku@matsue-ct.jp

<https://dosokai.matsue-ct.jp/>

松江高専創立60周年に向けて!

松江工業高等専門学校同窓会 会長 陶山 知政 (24期・土木)



ようやく新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、徐々にではありますが、私たちの暮らしもかつての日常を取り戻しつつあるのではないかでしょうか。そんな中、会員の皆様におかれましては、各界各分野で益々ご活躍のことと思います。

来年度(令和6年度)は、いよいよ松江高専創立60周年を迎えることになります。島根県はもちろんのこと、わが国自体が、人口減少・少子高齢化が益々進展する時代となり、とりわけ少子化によって県内高等学校では定数削減や学校の統合の議論が進むなか、松江高専にあっては、学科の増設や専攻科の新設など、今まで規模を拡大しながら60周年を迎えられることは大変喜ばしいことであり、すばらしいことであると感じています。これは地域、あるいは世間における松江高専の評価の高さを意味するものであり、同窓会の会員の皆様のご活躍の賜物であると言っても過言ではないと思っています。

さて本同窓会では、この60周年を迎えるタイミングに合わせて、本格的に新体制づくりに向けて動き出し、次代に繋がる新たなスタートを切れるように準備を進めているところです。昨年度の会報で

お伝えさせていただきましたとおり、現在、本同窓会の運営を担っている理事・幹事の構成員は、1期から24期までに集中しており、約8,500人の会員数の内、約5,000人を占めている25期以降の会員の代表が不在の状況となっていることや、未だに女性役員が不在であるなどの課題を抱えています。

その解決策のひとつとして、まずは同窓会事務局から代議員の方々へのお声掛けをさせていただくことを考えていますので、声が掛かった場合は、快くお引き受けいただきますようよろしくお願ひいたします。またその一方で、「我こそは!」と思っていただける、特に若い世代の会員の皆様は、同窓会事務局まで申し出でていただけますと幸です。

これから先も同窓会と母校がさらに発展していくためには、幅広い学科や世代が役員として同窓会活動に主体的に関わり、様々なアイデアを出し合うことによって、これまで以上に会員相互の交流が深まる組織にしていく必要があると考えています。なにとぞ会員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

結びとなりますと、本同窓会が会員の皆様にとって身近な存在に感じていただけるよう一層努めてまいりたいと考えていますので、引き続き、同窓会活動にご理解・ご協力を賜りますよう重ねてお願いいたしますとして会報発行にあたっての挨拶とさせていただきます。

校長ご挨拶



令和5(2023)年4月1日付で、宮崎県の国立都城高専校長から本校に転任いたしました。この紙面をお借りして皆様にご挨拶させていただきます。

私は名古屋大学大学院を修了後、大学助手として8年間、その後、岐阜高専で27年間の合計35年、教育研究・社会連携等に携わってきました。専門は河川工学、主に木曽三川流域を対象にして、治水(防災・減災)、利水(小水力発電)、環境(生態系保全、魚道)の研究を学生諸君と一緒に進め、土木学会中部支部研究発表会優秀賞を数多く獲得してくれたことが印象に残っています。

さて、全国の国立高専は、平成16(2004)年に独立行政法人国立高等専門学校機構となり、統合化により51校55キャンパスへと推移しました。昨年は、高専制度が創設されて60周年の節目を迎え、本校は3期校(1964年設立)ですので、来年(2024年)が創立60周年となります。

高専教育は、わが国が創設したユニークな高等教育機関として、全国高専の卒業生は約50万人に達しています。設立当初の中堅技術者育成から、今や産業構造や技術レベルも格段に進展しており、現在では様々な分野で本校卒業生が活躍されています。あらゆる分野において、SDGsへの取組を意識しながら、各分野においてDX(デジタルトランスフォーメーション)がもたらす可能性を追求して、その実現に技術者が果たす役割が期待されています。その中で高専教育における人材育成は、学生が育ち成長する機会を与え、社会

松江工業高等専門学校 校長 和田 清

が健康で持続的にwell-being(個人や社会が良好な状態)に向けて、新しい価値を創出する技術者(Social Doctors, Creator, Innovatorなど)としての役割を担うことになります。松江高専の教育目標は、「学んで創れるエンジニア」の育成であり、実践力、創造力などを兼ね備えたグローバルなエンジニアを目指すものです。

一方、高専制度創設60周年の節目を機に、すべての高専人の互助ネットワークを有形化し、継続性のある互助活動を行うことを目的として「一般社団法人高専人会」が設立されました。どこの高専を卒業しても「高専人」と呼称を統一し、各校の同窓会と連携して、全卒業生(約50万人)のネットワークを構築しようとするものです。そこでは、先に学んだ者が後で学ぼうとする者を教える、必ずしも先輩後輩の関係に依存せず、互いに学び、教えるという文化、在学生を「高専生」、全卒業生を「高専人」と呼び、互いに助け合う共有財産といった精神で進めようとするものです。

以上のように、高専は60年を経て、社会変革にチャレンジし、科学技術の成果を社会実装することで、人や社会にイノベーションをもたらす高度なエンジニアを育成する段階に入っています。成功は失敗のもと(失敗は成功のもとですが)と心得て、これからも地域を知り世界を知り自らを知って、高い志と粘り強さを特長とする「高専スピリッツ」で社会に貢献することを基本にして、更なる飛躍をしたいと考えています。

最後になりましたが、皆様のご活躍とご健勝を祈念するとともに、引き続き、松江高専の教育・研究、社会連携を通じてより一層の努力をいたす所存ですので、本校の「高度化」、「国際化」等にご協力とご支援をいただきますようよろしくお願い申しげます。

スタートアップ教育環境整備事業に採択

松江工業高等専門学校 スタートアップ推進室長 外谷 昭洋

2022年度末に本校が「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」に採択されたことに伴い、本校では起業家精神を育みスタートアップ人材を育成するための取組みとして、学生が主体的にものづくり活動をするための環境の整備を行っています。本年度は、昨年度完成した実習工場施設「イノベーションハブまつえ」内の加工設備等を拡充し、学生が起点になったものづくり活動ができる環境を整えるとともに、学生が学科学年混成でチームを組みプロジェクト活動を行う「スタートアップゼミ」および低学年から参加可能な企業の方を招いての講演会「スタートアップ塾」を新たに立上げ、学生が学校外の人と直接つながり、より実践的なスキルを身に着ける取り組みを始めています。近年、高専に対してスタートアップ人材の育成が求められ、ディープラーニングコンテスト(DCON)やGIRLS SDGs × Technology Contest (GCON)など、地域の課題解決や起業などを意識したコンテストが増える中で、低学年からよりレベルの高い実践的なスキルと起業に対するマインドを醸成できるように取り組んでいます。2022年にはGCONのファイナルラウンドへの進出や、高校生学会で優秀ポスター賞を受賞するなど活躍する学生も出てきていますので、この事業を通して、学生の教育にさらに力を入れていきたいと考えております。

同窓会会員の皆様におかれましても、引き続き、本校の教育活動にご支援とご協力をいただけますと幸いです。

2022年度の学生の活躍



GCON2022で決勝に進出



高校生学会で優秀ポスター賞受賞

2023年度の新しい事業(スタートアップ塾)



同窓会この1年（2022年9月～2023年8月）

- ・令和4年11月1日 同窓会報(第12号)発行
- ・令和5年3月 4日 令和4年度 第2回理事会@松江高専会議室
- ・令和5年3月14日 定年退職教員への記念品贈呈
- ・令和5年3月16日 第55回卒業式および第20回専攻科修了式@島根県民会館
コロナ禍のため同窓会入会式を簡略化し「入会に関するアナウンス」を実施しました。新規の入会者は、178名です。
卒業記念品として、図書カード(500円分)を贈呈いたしました。
- ・令和5年6月25日 令和5年度 第1回理事会@松江高専会議室

※理事会資料は年に1回、各クラスの代議員に送付しております。

会員の声

2名の会員の皆様に、松江高専に対する想いを綴っていただきました。



株式会社AAO 代表取締役 三谷 尊文
(24期・土木)

「友どちは肩を組みつつ」校歌の歌詞の一節ですよね、前後は覚えていませんがなんか印象深くて覚えています。私は24期、土木工学科に入学しました。クラスメイトには恵まれ、今でも連絡を取り合う友

も多くいます。

学生時代は、その友に相当甘えていました。テスト前には特に迷惑をかけていたと思います。みんなありがとうございます。先生方にも多大な力添えを頂きながら学生生活を過ごし、なんとかなんとか卒業する事が出来ました。しかしその頃の私は「この土木業界に自分は向いてないんじゃないかな」と真剣に悩んでいました。そして結局卒業直後から全く異業種の道を歩みます。この態度もお世話になった先生、友人に対して大変失礼だったと思います。しかし20歳の三谷青年は周りの事を考えられず、自分勝手に決断し行動をスタートしていました。本当に未熟で思慮の浅い決断です。

もちろんそんな勝手な考え方の男が、厳しい社会の中ですんなり上手くいくことはなく、転職も繰り返しました。そんな私ですが、出会う「人」には恵まれました。厳しくも優しく指導してくれる人たちのおかげで、なんとか社会の荒波を歩いていきました。

たくさんの人にお世話になってばかりだったので、仕事はとにかく一所懸命しました。どんな仕事も必死で食らいついていました。そんな中、私はまた大きな出会いをします。それは「酒」との出会いです。その頃私は酒量販店で働いていました。もともと酒を飲むのは好きでした。バーボンを好んで飲んでいました。そんな私ですが「さき酒師」という資格を取得してから、一気に日本酒が大好きになります。というか「日本酒」を誤解していたことに気付いたんです。そこからはどっぷりハマります。島根県内の酒蔵は全蔵何回も回りました。島根県中の全蔵を自転車で回るイベントをしたこともあります。蔵で蔵人と膝を突き合わせて話をしていると、目から鱗な事ばかりでした。その深い想いを聞けば聞くほど誰かに伝えたくなります。また蔵人に説明を受けながら飲む酒は本当に美味しいので、多くの方にこの美味しさを伝えたいくなります。で、私は今、居酒屋(酒匠の店佐香や、小料理松尾やなど)を経営しています。人生は分からないものです。これからも足元の、ふるさと島根の魅力をたくさんの方に伝えることで、少しでも恩返していきたいです。



豊橋技術科学大学4年 後藤 一輝
(31期・電子制御)

こんにちは、私は平成29年度に松江高専電子制御工学科に入学し、令和3年度に卒業しました。現在は愛知県にある豊橋技術科学大学機械工学課程に在籍しています。

今回は同窓会報を書かせていただく機会をいただきましたので、高専の5年間振り返ってみようと思います。

入学当初は高専という新しい世界に不安を抱えていました。賢そうな同級生たち、独特な先生方の存在、大量の課題、によって16歳の私は卒業できるか不安に思っていました。しかし、時間と共に、初めは距離を感じていた同級生との絆が深まり、卒業後の今も大切な仲間となっています。高専名物の大量のレポートや遅くまで続くテスト勉強は勉強が苦手だった私にとって、5年間の苦痛でしたが、今では仲間と一緒に乗り越えた思い出となっています。

同窓生の皆様もご存じの方も多いと思いますが、電子制御工学科には癖の強い先生がおられます。当時同級生みんな怒っていたと思います。私も最初のころは苦手で4年生でクラス担任になると聞いた時には絶望していましたが、2年間担任をしていただいて、この先生は僕らのためを思って怒ったりしていることに気づき正直好きになりました。

もう怒られたくはありませんが(笑)

確かに高専5年間は大変でしたが、「知識・技術」の学業面の成長だけでなく「人間性」「精神面」の成長が大きくて実感しています。これも、「仲間」と「先生」に恵まれた環境によるものだと思います。そんな松江高専がますます発展と同窓生の皆様のご活躍をお祈りしています。

P.S: 高専時代に何となく通学に使うために取得したバイクが、今では一番の趣味になっており、大学の部活でサークルに関わる機会があったりします。今年の鈴鹿8時間耐久レースという大きな大会の裏方でお手伝いする予定です。バイク好きな人はぜひ8耐ご覧になってください。



「会員の声」募集

会員の声にて、高専在学中の思い出や現況について記事を書いてみませんか。書いていただける方は、同窓会事務局までご連絡ください。

在校生の活躍

第50回記念全国高等学校選抜卓球大会出場

卓球部顧問 箕田 充志

2023年1月8日に大田総合体育館で開催された、全国高等学校選抜卓球大会島根県予選会で、本校卓球部2年生の勝部開君が優勝し、2023年3月24日から4日間、愛知県のスカイホール豊田で開催された全国高等学校選抜卓球大会に出場しました。

本大会は夏に開催される全国高校総体(インターハイ)と同格で、全国都道府県の予選会で優勝しなければ参加できない大会です。

勝部君の優勝は、卓球部として初めての快挙となりました。大会の予選リーグでは、全国の強豪相手に1勝1敗の結果となりました。

残念ながら、決勝トーナメントに進出できませんでしたが、この経験をもとに、さらに練習を積み重ね、今後の大会でも活躍できるよう頑張りたいと思います。

本大会参加にあたり、松江高専同窓会より交通費のご支援を頂き、誠にありがとうございました。



令和4年度 定年退職教員 紹介

退



松江高専での3年間と退職後の現況

校長 大津 宏康 先生

今年3月末で、松江工業高等専門学校(以下、松江高専)を定年退職しました。校長として勤務した3年間は、まさに「コロナと共にやってきて、コロナと共に去る」という言葉に集約されるでしょう。

校長としての初仕事は、管理職を毎週1回招集してコロナ対応を協議する「危機管理会議」を組織したことでした。同会議では学校休校、遠隔講義の実施、研究活動および課外活動の制限等の重たい意思決定を行いました。今振り返ると、当時新型コロナウイルス感染症がどのような病気かの情報が乏しかったため、過剰な対応もあったのではないかという反省の念を抱いています。その一方で、緊急事態の中で、無理なお願いに対応していただいた学生、教職員の尽力に感謝の念を表したいと思います。また、同窓会におかれましては、コロナ禍での学生支援を目的とした寄付金を頂きましたことに、あらためて感謝の念を表したいと思います。

さて、退職して3ヶ月が過ぎました。京都大学大学院を修了してから、大成建設(16年勤務)、京都大学(23年勤務)、松江高専(3年勤務)において計42年勤務した後、大阪に戻り第2の人生を開始しました。現状常勤の勤務はありませんが、自由な立場で建設分野の学協会、NPO等において活動しています。具体的には、大阪万博2025、インフラ建設DX、若手技術者の活性化等の多様なテーマに取り組んでいます。そうした中で、近畿の建設業関係者の「島根県人会」という懇親会組織があることを知りました。メンバーの中には松江高専OBも含まれています。私もそのメンバーに加えていただきました。懇親会では「玉鋼」をはじめとして島根のおいしい酒を飲みながら、島根の話題で盛り上がるそうです。このような人のつながりを今後とも大切にしていきたいと考えています。

最後に、松江高専同窓会の皆様のご健勝と益々の発展を祈念しまして、私から退職後の報告とさせていただきます。

益々の発展を祈念します。

数理科学科(数学) 中村 元 先生



関西で育った私が島根・鳥取の海を初めて見たのは中学1年生の夏休みでしたが、山陽新幹線を岡山駅(当時の終点駅)で降りて大山の山頂まで行った時の弓ヶ浜周辺の眺めに感激して、自分にとっての運命的なものだったと感じています。幼いころから勉強に四苦八苦し、自身の教科の中で算数・数学が一番マシだったため、学校の進路は自然に決まってきました。もっとも算数・数学に熱い気持ちを持っておられた先生との子供の頃の出会いも大きかったのですが。その後本校に長年勤務出来て大変な幸運でした。20代で赴任して退職までの30数年間、学校の正門前の坂を毎日上り下りしたことになります。その間に実際に多くの学生が入学し、巣立って行ったのを見届けました。また周囲のみなさんとの出会いや別れも多く経験しました。在職中は目の前の仕事をこなすことに精一杯でしたが、松江を離れた今改めて思い出されます。学校の授業やクラスでの活動以外にも課外活動、高専祭や体育祭、2年生の大山でのスキー合宿、インターナンシップや卒業研究ほか多くの経験を通して学生は成長していました。教職員の皆さんの誠意と御尽力に改めて敬意を表します。また子供のころから不器用で鈍かった自分が長年勤められたことも、皆さんの御厚意・御理解あってのことと感激で一杯です。在職中、学生を育てる大切なことは重々分かっていても理想通りにいかず、自分が教わった先生のように数学への情熱で学生に接するほか無かったと思います。ただ結果は思い通りには成功しませんでしたが・・・。松江高専を巣立った元学生のみなさんは、大きくて小さくても良いから夢や憧れを持って生活してもらいたいです。自分自身は、これからも足掻きながらでも何等かの形で数学に関わっていくつもりです。

最後になりましたが、この素晴らしい学校が益々発展されることを祈念致します。

23年間何とか完走できました

環境・建設工学科 河原 庄一郎 先生



私は2000年に松江高専へ赴任し、以来23年間皆勤しました。前任の大学では、土質力学の授業をしたことがなく不安でしたが、定年まで何とか務めることができました。これも教職員・学生の皆様のお陰です。人生の岐路で正しい道を選択できたと思います。松江高専で総じて心地よく働けて幸せでした。赴任したころは、専攻科はまだなく、学会発表していない教員が多数いました。昼休みには全教員参加の学生処分会議(タバコ・飲酒)がよくあったことを覚えています。10月には鳥取県西部地震が発生し、初の被害調査を体験しました。授業は全学年50点合格で、評価も厳密なものではありませんでした。毎日の掃除の時間もなかったので教室が汚いました。ところが、2002年に現在に至る教育の大改革がありました。4年生以上は60点合格となり、そのため退学者・留年者が増えました。受け持ちは退学した4年生からは「いつまでたっても卒業できない気がする」と言われショックでした。しかも、当時は就職状況もあまりよくなく、推薦しても不合格になった会社があり、特に女子学生には迷惑を掛け申しそうありませんでした。

また、「名医よりホームドクター」、「島根大学に負けない」を信条に、地域に貢献したつもりです。例えば、松江市からの依頼で、築城時の松江城下町の土地造成史について研究しました。宇賀丘陵を開削して塩見縄手付近の北堀を造成し、掘削土は松江城下町の埋土・盛土に使われたという伝承があります。採取土の土質試験から広大な松江城下町の土地造成にはそれでは全然足りなく、付近の浚渫土が使われたことが分かりました。成果は、松江市史(松江城編)となりました。松江平野におけるボーリング柱状図の電子化も行いました。

趣味のマラソンに例えると、人生の前半に少し飛ばし過ぎて後半はばてて何とか制限時間内にゴール(定年退職)にたどり着いた感じです。それでよかったと思います。島根大学には土木工学を専門とする学科がないため、現在も含め学識経験者として行政・地域から期待されていることが実感できました。2025年3月までは再雇用でお世話になりますので、遠慮なくお訪ねください。

編 集 後 記

同窓会報第13号を発行させていただきました。いかがだったでしょうか。新型コロナウイルスの影響も収まりつつある本年度、学校として和田新校長を迎えて、様々な取り組みを行っています。同窓会としても、会長の話にあったように松江高専の創立60周年に向けて学校運営をサポートしていくながら、時代に合わせた体制に変革をしていきたいと考えているところですので、会員の皆様にも、引き続き同窓会の運営にご協力を頂けたらと考えております。